

## オルガノン要約(§133~145)

§133 症状が出ているときに、いろんな環境に出て行くことでモダリティーを確認することができる。そうすると症状像がより明確になる。

§134 レメディの全ての症状は一人だけに表現されないし、一回で表現されるわけでもない。多数のブルーバーに共通する・繰り返す症状があるだろう。

§135 プルービングの情報を確実にするのは多数の性質の異なる男女の身体を用いること。その後ブルービングを続けてもそれ以外の症状がもはや現れなくなったときブルービングは完全となる。

§136 レメディは全ての健康な人に症状を生み出す力を持っている。それ故、その病的状態に類似した症状が認められる患者に対して、ホメオパシー的に選ばれたレメディを微量投与すれば、有効に働き、健康に導く。

§137 一次作用のみが最も知るべき価値のあるもので、それは適量の投与で得られる。過剰投与は一次・二次作用を混乱させるだけでなく、危険ですらある。

§138 正しく条件づけられたブルービングで起きた症状は、レメディによるもの以外ではない。(その人のものではなく)

§139 プルービングで現れた症状は細かく正確にメモを取り、ブルーバーの目の前で確認すること。  
(注) プルービング情報を世に出す人はその内容に責任を持つ必要がある。

§140 プルーバーが語ったことだけを記述し、推測や憶測は入れてはいけない。医師からの質問への答えもできるだけ少なくすること。

§141 最も優れたブルーバーとはホメオパスが自分に対して行ったものである。  
(注) 最も信頼できるブルーバーは自分だから。そして「汝自身(知恵の根本にあるもの)を知る」ことができる。自分へのブルービングはレメディをより広く深く探求する動機となる。そして、ブルービングを行うことでブルーバーの健康はより安定し向上する。(ハーネマンの経験上のもの)

§142 病気の時元々の症状かレメディの症状かを見分けるのは難しい。

§143 真のマテリアメディカは正しいブルービングとそれを慎重、忠実に記録したものだけである。

§144 マテリアメディカの中からは憶測を完全に排除すべきである。

§145 もはや最適なレメディが見つからないケースはわずかしかない。レメディの作用は優しく確実に持続的だが、混合薬を使うアロパシーでは治癒できないだけでなく危険ですらある。  
マテリアメディカの充実に向けて、今後も貢献していけば、非常に確かな治療が約束される。